

保育園等において予防すべき感染症と出席停止期間の基準

高岡市子ども・子育て課(令和7年4月)

※印は、医師の登園許可（園にある登園許可書に証明）が必要です。

◎印は、医師による登園許可書は必要ありませんが、登園再開時に保護者記入の治癒報告書の提出が必要です。

番号	病名	潜伏期間	主な症状	感染経路	登園基準	予防接種・備考
1 ※	麻疹 (はしか)	8～12日	発熱、咳、鼻水、目やに、頬の内側に 白い斑点状コプリック斑ができる。 その後、顔や頭部に発疹。	空気・飛沫 ・接触感染	解熱後3日経過していること	麻疹・風しん混合ワクチン 定期接種:2回 1期 1歳から2歳に至るまでの間 2期 年長児
2 ※	風しん (三日はしか)	16～18日	発熱と同時に顔に発疹。耳の後ろ・ 首・後頭部などのリンパ節の腫れ。	飛沫感染 接触感染	発疹が消えていること	
3 ※	百日咳	7～10日	感冒様症状から始まる。次第に咳が強くなる。 1～2週で特有の咳。咳は夜間に悪化する。 乳児期早期では無呼吸発作からチアノーゼ、 痙攣、呼吸停止となることがある。	飛沫感染 接触感染	5日間の抗菌性物質製剤 (=抗生剤) による治療終了 か、特有の咳が消え、全身 状態が良好であること	4種(・5種)混合ワクチン(ジフテリヤ・ 百日せき・ポリオ・破傷風(・Hib)) 定期接種:初回3回 追加1回 計4回 生後3か月から7歳6か月に至るまでの間
4 ※	水痘 (水ぼうそう)	14～16日	水疱のある発疹が全身に次々とする。 痂皮化し先に出たものから治っていく。	空気・飛沫 ・接触感染	すべての発疹が痂皮(かさ ぶた)化していること	水痘ワクチン 定期接種:2回 1歳から3歳に至るまでの間
5 ※	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16～18日	発熱。まず片側ないし両側のあごの後ろ が大きく腫れて痛む。食欲減退、嚥下困難	飛沫感染 接触感染	腫れが出た後5日を経過 し、かつ全身状態が良好で あること	おたふくかぜワクチン 任意接種:2回 1歳以上
6 ※	咽頭結膜熱 (プール熱)	2～14日	発熱、のどの痛み、結膜の充血、 食欲不振が3～7日続く。涙が多くなる。	飛沫感染 接触感染	主症状消失後2日経過して いること	夏季に流行が見られるが、 一年を通して罹患する。
7 ※	流行性角結膜炎 (はやり目)	2～14日	涙、目やに、異物感、結膜充血。	飛沫感染 接触感染	結膜炎の症状が消失してい ること	極めて伝染力が高い。 タオル等の共用をしない。
8 ※	結核	3か月～数10年	慢性的な発熱、咳、疲れやすさ、食欲不 振、体重減少、夜間咳、盗汗、 症状が進行すると呼吸困難、チアノーゼ	空気感染	医師により感染のおそれが ないと認められていること	BCGワクチン 定期接種:1回 生後5か月～生後8か月に至るまでの間
9 ※	腸管出血性大腸菌 感染症 (O157等)	10時間～6日 O157は3～4日	腹痛、血便、水様下痢便、嘔吐、発熱、 脱水症状。	経口感染 接触感染	医師により感染のおそれが ないと認められていること	
10 ※	急性出血性結膜炎	1～3日	急性結膜炎で結膜出血が特徴	飛沫・接触	医師により感染のおそれが ないと認められていること	ウイルスは一カ月程度便中に 排泄されるので手洗いの励行。
11 ※	髄膜炎菌性髄膜炎	4日以内	頭痛、発熱、嘔吐、痙攣、意識障害	飛沫感染 接触感染	医師により感染のおそれが ないと認められていること	髄膜炎菌ワクチン 任意接種:1回 2歳以上
12 ◎	インフルエンザ	1～4日	突然の高熱が3～4日間続く。全身症状(こ れら2つを伴う。倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛)を伴う。 咽頭痛、鼻汁、咳嗽	飛沫感染 接触感染	発症後5日を経過し、か つ解熱した後3日を経過 していること	季節性インフルエンザワクチン 任意接種:2回 生後6か月から接種可能
13 ◎	新型コロナウイルス	1～14日	発熱、咳、全身倦怠感、頭痛、 下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害等。 無症状の場合もあり。	飛沫感染 接触感染 エアロゾル感染	発症後5日を経過し、か つ症状軽快後1日を経過 していること	コロナワクチン 任意接種 生後6か月から接種可能
14	溶連菌感染症	2～5日	発熱、咽頭痛を発症、舌の腫れ、全身に 鮮紅色の発疹等。	飛沫感染 接触感染 経口感染	抗菌薬の内服開始後24時 間以上経過し、全身状態 が良好であること	
15	伝染性膿痂疹 (とびひ)	2日～10日	虫さされ、湿疹を掻いた後、水疱の ある湿疹ができる。かゆみを伴う。	接触感染	病変部を外用药で処置し、 ガーゼ等で覆ってあること	湿潤部位はガーゼで覆い、他の 児が接触しないようにする。
16	ウイルス性胃腸炎	(ロタウイルス) 1～3日 (ノロウイルス) 12～48時間	下痢、嘔吐、軽度の発熱。 ロタウイルス(冬から春にかけて流行) ノロウイルス(秋から冬にかけて流行)	経口感染 接触感染 食品媒介感染 空気・飛沫感染	発熱や下痢や嘔吐がなく、 普段の食事ができること	ロタウイルスワクチン 定期接種:生後6週から生後24～ 32週までに完了 排便後の便(オムツ)、嘔吐物 の処理や手洗いの徹底。
17	マイコプラズマ肺炎	14～21日	咳、発熱。解熱後も咳が3～4週間持続す	飛沫感染	発熱・激しい咳が治まっ ていること	
18	突発性発しん	9～10日	3日間程度の高熱。解熱後体幹部を中心に 鮮紅色の発疹が出る。	飛沫・接触 ・経口感染	解熱後1日以上経過し、全 身状態が良好であること	生後6か月から2歳によく みられる。
19	手足口病	3～6日	口内、手のひら、足の裏、臀部、膝 に小さな水疱。発熱を伴う。	飛沫感染 接触感染 経口感染	発熱がなく(解熱後1日以 上経過し)、普段の食事が できること	無菌性髄膜炎の恐れがあるの で、頭痛、嘔吐に要注意。
20	伝染性紅斑 (りんご病)	4～14日	軽い風邪症状後両頬に紅色斑や四肢に網 の発疹。痒みほてり。	飛沫感染	全身状態が良好であること	発疹が出た時ウイルスの排出 は、ほとんど終わっている。
21	ヘルパンギーナ	3～6日	発熱。口の中に小さな水疱、 潰瘍ができ、痛い。	飛沫・接触 ・経口感染	発熱がなく(解熱後1日以 上経過し) 普段の食事がで きること	春から夏にかけて流行。 排泄物の取り扱いに注意。
22	RSウイルス感染症	4～6日	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難 乳児(6か月未満)は重症な呼吸器症状 を生じる。	飛沫感染 接触感染	呼吸器症状が消失し、全身 状態が良好であること	非常に感染力が強いので施設内 感染に注意が必要。(特に0歳児) 排泄物の取り扱いに注意。
23	帯状疱疹	不定	神経痛、刺激感を訴える、小児では掻痒 訴える場合が多い。 多数の水疱(水ぶくれ)、紅斑	接触感染	全ての発しんが痂皮(かさ ぶた)化していること	水痘の免疫のない児が帯状発疹 の患者に接触すると水痘を発症 する可能性あり。
24	アタマジラミ	10～30日 (卵は 約7日で孵化)	耳の後ろ、後頭部を痒がる。卵は髪 の生え際、耳の後ろ、後頭部に産みつけら れる。一見ふけのようだが、払っても 落ちないのが特徴。	接触感染 寝具等の共用	駆除を開始していること	頭を近づけ遊ぶ時や午睡時など 伝播しやすい。家族内でも伝播 するので家族同時に駆除する ことが重要。

参考 保育所における感染症対策ガイドライン (こども家庭庁)

☆ 予防接種はお子さんの体調のよい時に、かかりつけ医と相談して受けましょう。

